

青年就農給付金／農業次世代人材投資資金を活用した先輩農業者のすがた(研修を受けて就農されたみなさん)

【準備型】

| 研修内容<br>採択年度 | 水田            | 野菜                                                                                                         | 果樹                          | 花き・花木        |
|--------------|---------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|--------------|
| 令和3年(2021年)  |               | 秋田県 藤澤 大和 さん<br>長野県 工藤 奈津美 さん<br>滋賀県 川崎 香 さん                                                               | 山口県 金子 雅人 さん                |              |
| 令和2年(2020年)  | 山形県 匿名希望※ さん  | 栃木県 島野 優一 さん<br>東京都 赤塚 功太郎 さん                                                                              | 岩手県 大櫻 裕之 さん                |              |
| 令和元年(2019年)  |               | 神奈川県 飯野 広士 さん<br>高知県 埜下 真樹 さん<br>大分県 平井 聡 さん                                                               | 愛知県 杉本 泰祐 さん                |              |
| 平成30年(2018年) |               | 宮城県 齋藤 実 さん<br>山形県 齊藤 勝久 さん<br>千葉県 若菜 紘幸 さん<br>京都府 角田 忠司 さん<br>大阪府 西野 朱樹 さん<br>島根県 匿名希望 さん<br>福岡県 白谷 大吉 さん | 佐賀県 原田 諭 さん<br>岡山県 坂口 雄幸 さん |              |
| 平成29年(2017年) |               | 広島県 小山 裕士 さん<br>宮崎県 川添 圭路 さん                                                                               | 埼玉県 松山 健吾 さん                |              |
| 平成28年(2016年) | 新潟県 本間 恭介※ さん | 鹿児島県 山田 豊 さん                                                                                               | 香川県 岡田 凌 さん                 |              |
| 平成27年(2015年) |               |                                                                                                            | 愛媛県 野本 昌平 さん                |              |
| 平成26年(2014年) |               | 茨城県 中村 敦 さん                                                                                                | 富山県 高桑 健 さん                 |              |
| 平成25年(2013年) |               |                                                                                                            |                             | 北海道 齊藤 義也 さん |
| 平成24年(2017年) |               | 群馬県 永田 亮 さん                                                                                                |                             |              |

※ 複数の類型について研修

# 匿名希望さん (37歳)

研修先：先進農家  
研修内容：露地野菜他

## 新規就農を志した経緯・背景

農業をしていた祖父母を見て、いつかは自営就農をしてみたいと考えていた。当時は民間企業に勤めていたが、市役所に相談した際に就農のための支援制度があることを知り、勉強をしっかりとって就農できるなら安心だ、と思い研修を始めた。

## 研修中に工夫したポイント

- ・支援制度を活用することで生活費に不安を持たずに、研修に集中することができた。
- ・農家になるなら横のつながりが大切だと思っていた。研修先には新規就農者の先輩や農協の出入りが多かったこともあり、農業関係者との関係構築ができた。
- ・構築できたつながりから、就農に必要な農地・機械等の情報収集をするように意識した。

## 資金の活用例

生活費・就農資金  
として



## 今後の取組

今までは1人で作業を行っていたが、令和5年11月より農福連携の取り組みをはじめ、就労支援事業所からさといもの出荷調整作業に来てもらっている。他の色々な作業でも利用させて貰えたらと考えている。農福連携で効率化が図れたため、経営規模の拡大にも向かいたい。

## 就農に向けた推移と今後

### 研修 (H30.9~R2.2)

農作業全般  
主にキャベツ

- ・平成30年に研修開始。
- ・トマト農家とキャベツ農家で研修。特に露地野菜に興味ありキャベツで就農を目指す。

### 就農準備 (R2)

認定新規就農者取得

- ・関係機関と連携し営農計画、就農計画を作成し認定を取得した。
- ・師匠や先輩農家に相談し農地探しをおこなった。

### 現在 (就農4年目)

露地野菜  
キャベツ240a他

- ・順調に規模拡大が行えており、人手不足も農福連携で補えるようになった。

### 今後の目標 (就農5年後)

キャベツ以外の品目の規模拡大

- ・今までは市場中心に出荷をしていたが、これからはさといもやサツマイモの規模を増やし産直へのお荷も増やしていきたい。産直での販売が増えるように、量を増やすだけでなく質を意識していく。

岡山県

# 坂口 雄幸 さん (36歳)

## 新規就農を志した経緯・背景

生きるために不可欠な「食べ物」を自らの手で栽培し、多くの人々に食べてもらうという生き方に憧れた。また、経営者として、自らの責任の下で物事を決心し、実行できることに魅力を感じた。

## 研修中に工夫したポイント

- ・受入農家、市、JAから案内のあった研修には積極的に参加し、知識を習得。
- ・普及指導センターの指導を受けながら、綿密な青年等就農計画を作成。
- ・受入農家や地域住民から信頼を得ることで、就農直後に成園や若木園地を確保でき、経営開始年から所得を確保。
- ・地域になじめるよう地元の行事等には積極的に参加。

研修先：J A 晴れの国岡山  
研修内容：ぶどう

## 資金の活用例

- ・研修期間中の生活費
- ・研修会参加や地域内ほ場把握に係る経費等



## 今後の取組

加温栽培の導入による作業分散、雇用の導入による作業の効率化を進め、経営の安定化と品質の向上を図りたい。また、近隣の産地との情報交換の機会をつくり、相互のスキルアップを目指したい。

## 就農に向けた推移と今後

### 研修 (H30～R元)

- 農作業全般。  
ぶどうの栽培、出荷等
- ・平成30年に研修開始。
  - ・給付金、自己資金、妻の収入で生計を維持。
  - ・農業大学校でも研修受講。

### 就農準備 (R元)

- 就農予定地の確保と  
就農計画の作成
- ・中間管理機構を活用し農地を準備。
  - ・青年等就農計画を作成。

### 現在 (就農4年目)

#### ぶどう (55a)

- ・就農時の園地35aに加えハウス園地20aを取得。
- ・農業所得は青年等就農計画を上回り順調。
- ・経営開始型を受給。

### 今後の目標 (就農6年後)

#### 品質の向上を図る

- ・加温栽培と雇用の導入により出荷物の品質向上を目指す。
- ・東備地区全域での産地力、技術力の向上に貢献する。

# 小山 裕士 さん (35歳)

研修先：広島県果実農業協同組合  
研修内容：露地野菜

## 新規就農を志した経緯・背景

ぶどう産地のある地域で育ったことで、農業を身近に感じていた。大学を卒業して就職していたが、広島果実農業振興対策センター沼隈農園の研修を新聞記事で知り、地域の特産品であるぶどう作りに携わりたいと思い、就農を決意した。

## 研修中に工夫したポイント

- 研修1年目は、ぶどう栽培における作業の意味を理解するように努め、疑問点は指導者や研修卒業生、先輩農家に聞き、すぐに解決するように心掛けた。
- 研修2年目には、前年をふまえて、出荷から逆算した作業スケジュールを主体的に考案し、他の研修生と協力しながら作業を行った。経営計画の作成や視察、新品種等の情報収集についても積極的に取組んだ。
- 産地内での園芸組合の行事や共同作業に参加し、組合員とコミュニケーションをとりながら良好な関係を作り、地域に溶け込んだ。

## 資金の活用例

研修期間中の生活費等



## 今後の取組

ぶどうの栽培面積を拡大しながら、高品質なぶどうを安定的に生産し、経営拡大を目指したい。

## 就農に向けた推移と今後

### 研修 (H29~R1)

ぶどう栽培管理から収穫・出荷までの作業全般

- 平成29年に研修開始。
- 栽培実習、営農基礎。
- 市場視察に参加。

### 就農直後 (R2)

ぶどう 24a

- 園芸組合長や農園長の助力で、24aの成園地を確保。
- 青年等就農計画の認定。

### 就農4年目

ぶどう 69a

- 加温ハウスを導入し、温度をスマートフォンで管理。
- 就農2年目に集積・改植した園地の収穫も開始。

### 今後の目標 (就農7年後)

ぶどう 80a

- 面積をさらに拡大し、経営規模を拡大。
- 繁忙期の人員を確保し、高品質なぶどうを安定的に生産。



# 金子 雅人 さん (32歳)

研修先：農業大学校／先進農家  
研修内容：梨

## 新規就農を志した経緯・背景

前職は香川県で事務をしていたが、農業に憧れがあり結婚を機に移住・就農を考える。就農先を探す中で、関心のある果樹を探していたところに山口県で募集があった梨農家の事業承継という形で就農を決断した。

## 研修中に工夫したポイント

- ・農業大学校在籍中に受講できる資格講習等を受講し取得した。
- ・簿記の知識を活かし、農業簿記2級を取得した。
- ・研修の合間で定期的に継承予定園に通い、樹の状態、剪定技術の引き継ぎ、新植予定地の整備などを行った。
- ・就農予定地の組合活動に積極的に参加し、先輩農家とのつながりを構築した。
- ・県外の先進農家や研究機関に視察へ行き、最新技術を学んだ。

## 資金の活用例

- ・研修中の生活費
- ・研修に使用する道具



## 今後の取組

新しい仕立て方「ジョイントV字樹形」を導入し省力化、早期成園化を成功させ、県内での普及促進を目指す。

駐車場、休憩所を整備し、観光農園として直売率を向上させる。組合の活動に積極的に参加し、産地の振興に取り組む。

## 就農に向けた推移と今後

### 研修 (R3～R4)

- 農作業全般  
梨の栽培、剪定等
- ・R3年に農業大学校にて研修開始。
  - ・R4年 就農予定地の梨組合にて現地研修。

### 就農準備 (R3～R4)

- ・関係機関のサポートを受け、園地継承の合意書の作成、調印。
- ・営農計画の作成。
- ・継承予定園にて引き継ぎ。

### 現在 (就農1年目)

- 梨 70a
- ・経営開始型に移行。
  - ・目標売上を達成。
  - ・空き地を開墾し、経営発展支援事業を活用し梨棚16aを増設。

### 今後の目標 (就農5年後)

- 梨 86a
- ・ジョイントV字樹形にて16aを新植。早期成園化を目指す。
  - ・観光農園、インターネットを通じて販路の拡大、直売率の向上を図る。

# 岡田 凌さん（33歳）

研修先：先進農業法人  
研修内容：果樹（柑橘、ナシ）

## 新規就農を志した経緯・背景

県外出身で民間企業に勤めていたが、以前から農業（果樹）にあこがれていたため、働きながら当時の勤務地であった観音寺市の農業法人に農業体験に通う日々を送る。自分のイメージしていた農業と一致したことから、独立・自営就農を目指し、農業体験した法人で本格的に研修を開始。

## 研修中に工夫したポイント

- ・カンキツには、表年と裏年があり、研修期間中（2年間）に1回ずつしか体験できないため、栽培ポイントに関して細かく記録を付けたり、栽培技術に関して積極的に質問するなど努力に励んだ。
- ・将来の自分ひとりでの就農をイメージしながら研修に取り組み、家族経営生産者の経営も学びながら栽培技術、経営に関する知識を習得。
- ・農地および販路の確保については、法人（研修先）の協力もあり円滑に就農できた。
- ・農地については、園主が高齢化により手放す園地を選定することで、1年目から収入を確保。

## 資金の活用例

- （準備型）  
生活費、就農準備費（コンテナ等資材の購入）  
（開始型）  
運転資金（農薬、肥料、資材等の購入）



## 今後の取組

- ・地域に信頼・必要とされる農業経営を目指していきたい。
- ・消費者に求められる商品を目指し、味と品質の向上を図る。
- ・ワーク・ライフ・バランスを充実させ、家族がいつも笑顔でいられる家族経営を確立したい。

## 就農に向けた推移と今後

### 研修（H28～30）

- 栽培作業全般  
カンキツの栽培管理  
出荷調整
- ・平成28年に研修開始。
  - ・将来の独立・自営就農像をイメージしながら研修に取り組む。
  - ・準備型資金と貯蓄で生活費を賄う。

### 就農準備（H30～R2）

- 研修先の師匠の紹介で  
園地を確保
- ・研修中に園地を選定し就農1年目（80a）から収入確保、2年目に160aに拡大。
  - ・就農1年目に動力噴霧器、3年目にクローラ運搬車を導入。

### 就農期（R2～4）

- 園地と品目を拡大し  
経営の安定化を図る
- ・カンキツの栽培面積200aに拡大。
  - ・老木の改植に取り組む。
  - ・R4からナシ栽培を追加して（8a）、夏期の収入源を確保。

### 現在（就農6年目）

- 安定した収量確保と  
品質の向上を目指す
- ・改植した果樹が順調に成長し、今後収穫増が見込まれる。
  - ・消費者を意識し、味や品質のよい商品の生産に注力する。

### 今後の目標 （就農10年後）

- 安定した家族経営の確立、地域の信頼
- ・奥さんとともに安定した家族経営を目指す。
  - ・直販等新たな販路開拓。
  - ・将来的には研修生の受入や新規就農者の育成など地域への貢献を目指す。

## 野本 昌平 さん (29歳)

研修先：農業大学校  
研修内容：かんきつ

## 新規就農を志した経緯・背景

実家が農業を営んでいたが、高校は普通科へ進学。卒業後は東京で会社員として勤務。会社員として働くうち、自営への気持ちが強くなり、親の勧めで農業を選択し、技術習得のため農業大学校へ進学。

## 研修中に工夫したポイント

- ・実家で手伝っていた時の作業内容を学問的に理解できた。
- ・就農後は、共同出荷だけでなく消費者への直接販売もしたかったため、生産者から消費者までの流通やマーケット理論等を積極的に学んだ。
- ・実家でこれまで行ってきた各種作業を、より効率的に実施できるよう技術や情報収集を行った。

## 資金の活用例

## 研修中の生活費等



## 今後の取組

今後はハウスの面積を増やし高品質な柑橘を生産したい。(現在：15a ⇒ 5年後：35a)

また、直販が過半を占めていることもあるため、法人化を目指し、信用される経営体として成長していきたい。

## 就農に向けた推移と今後

研修 (H26～H27)

柑橘の栽培全般  
流通等経営関係

- ・社会人経験後研修開始。
- ・資金や会社員時代の貯金で生計を維持。

就農準備 (H27)

当初親からの一部継承  
を計画していたが、全  
部継承で経営開始。  
(柑橘77a)

現在 (就農9年目)

順次規模拡大  
(柑橘120a)

- ・作付け品目の拡大。  
3種類⇒7種類

今後の目標 (就農14年後)

法人化による経営安定を  
図るとともに、規模拡大やハ  
ウス面積を増やす。

(柑橘120a⇒150a)  
(ハウス15a⇒35a)

- ・直販している品種のより高品質化を行い、経営基盤を強化。

## 埜下 真樹 さん (39歳)

研修先：黒潮町農業公社  
研修内容：施設野菜

## 新規就農を志した経緯・背景

民間企業やNPOで勤務していたが、農業への憧れを捨てきれず、新規就農を志した。

## 研修中に工夫したポイント

- ・就農に向けて、栽培管理からトラクターの操縦、農業経営の基礎まで、農業に関する様々なことを学んだ。
- ・農業公社所有のハウスで、様々な測定装置を用いてハウス内の環境を把握し、さらに環境制御装置を用いてデータに基づいた栽培管理を行うノウハウを身につけた。
- ・公社以外での研修や地元農業者との交流にも積極的に参加した。

## 資金の活用例

- ・生活費
- ・農機具購入費



## 今後の取組

経営規模拡大に向けて、作業の効率化を進めるため、新技術に関して、積極的に調査、視察、導入を進めていきたい。

## 就農に向けた推移と今後

研修 (H29～R1)

- (一社) 黒潮町農業公社で研修
- ・H29年に研修開始。
  - ・キュウリ栽培の基礎管理を習得。

就農 (R1)

- 黒潮町農業公社所有サポートハウス7aで就農
- ・環境測定装置、CO<sub>2</sub>発生装置などの環境制御装置を導入。

詳細は  
[こちら！](#)

現在 (就農5年目)

- 12aの中古ハウスを追加、総面積19aに
- ・高知県IoTクラウド (SAWACHI) 導入、若手生産者グループで環境データを共有。管内トップレベルの収量を記録。

今後の目標 (就農10年後)

- 経営規模拡大  
作業効率化
- ・現在2カ所に分かれている圃場の集約。
  - ・新規ハウスでも統合環境制御装置を採用し、作業の効率化を図る。



## 白谷 大吉 さん (29歳)

研修先：先進農家  
研修内容：イチゴ栽培

## 新規就農を志した経緯・背景

親戚のイチゴ農家から栽培をやってみないかと誘いを受け、最初は手伝い感覚だったが、次第に自分で栽培と経営をしたいと思うようになり、自分のほ場や施設を取得した。

## 資金の活用例

- ・ 農機具の購入
- ・ 生活費



## 研修中に工夫したポイント

- ・ 基本的なイチゴの栽培技術や作業を身につける。
- ・ 天候によって仕事内容や作業量が変化するので、それに適用できるように作業効率を上げるようにした。
- ・ 現実的かつ理想的な農業経営スタイルをしっかりと考えて綿密に計画を立てた。

## 今後の取組

- ・ 安定した収入が得られるようにイチゴの栽培技術の向上を目指す。
- ・ 米・麦・大豆の栽培をしていく。(複合経営への展開)

## 就農に向けた推移と今後

## 研修 (H30～R1)

- ・ イチゴの栽培実習。
- ・ 農作業全般。
- ・ 農業機械の免許取得。
- ・ 自分の経営するハウス等の準備。
- ・ 次年度に向けて親株の定植。

## 就農 (R2)

イチゴ 20a  
オクラ 3a

- ・ JA部会であまおうを栽培
- ・ オクラを栽培して自分で出荷までするという流れを経験。
- ・ 資金の確保ができ、トラクタなどの農機具を購入。

## 現在 (就農4年目)

イチゴ 20a

- ・ JA部会員の高収量者等との交流により技術研鑽。
- ・ あまおうの樹勢維持を意識した栽培管理を実践。
- ・ 4名を雇用し、適期の作業を実践。

## 今後の目標 (就農10年後)

イチゴ 30a  
米・麦・大豆 10ha

- ・ イチゴの規模を拡大し、所得を向上。
- ・ 現在、親戚が栽培している米・麦・大豆栽培を継承。

佐賀県

## 原田 諭 さん (39歳)

## 新規就農を志した経緯・背景

転職を考えていた折、妻の希望もあり就農を検討。きゅうり農家で体験実習をした際に楽しさややりがいを感じることができ、経営面でも魅力的である施設きゅうり栽培を決意。高い栽培技術や経営管理を身につけるためきゅうりトレーニングファームへ入校。

## 研修中に工夫したポイント

- ・研修1年目は研修ハウスでの実技研修及び土壌・肥料・農薬・病害虫防除の基礎など幅広く学び、全国トップクラスの農家から指導をいただいた。
- ・研修2年目は模擬経営を行うことで、統合環境制御技術や就農後の経営感覚を習得した。
- ・模擬経営では妻との役割分担など実際に近い形を意識して取り組み、後輩に作業の指導をするなど就農後の従業員教育につながるものを学んだ。

研修先：JAさがきゅうりトレーニングファーム  
研修内容：きゅうり（栽培技術、経営等）

## 資金の活用例

## 研修中の生活費



## 今後の取組

経営規模は維持したまま、経営の合理化や反収増加により所得率の向上を目指す。

## 就農に向けた推移と今後

研修（H30～R2）

トレーニングファームで、きゅうりの栽培技術及び経営管理を習得。

- ・研修2年目は模擬経営。

就農開始（R2）

夫婦型で  
農業経営

- ・妻と共同で農業経営を開始。
- ・施設（27a）はJAのリース事業を活用。

現在（就農4年目）

きゅうり27aを栽培

- ・統合環境制御技術を駆使し、反収39t（県平均25t）を達成。
- ・第47回佐賀県野菜生産改善共進会で最優秀賞を受賞。

今後の目標（就農4年目以降）

- ・反収45t以上達成に向けて技術向上を図る。
- ・経営の合理化による所得率の向上。

## 平井 聡 さん (46歳)

研修先：豊後大野市インキュベーションファーム  
研修内容：ピーマン

## 新規就農を志した経緯・背景

前職でアパレル関係の仕事をしていたが、先の見えない仕事に転職を考えるようになった。もともと夫婦で田舎暮らしがしたいといった思いがあり、田舎でできる仕事は何か考えたときに、資格を必要としない農業が思い浮かんだ。都市近郊で調べたときに豊後大野市のインキュベーションファームを見つけ、短期研修を受けてみて、研修生がいきいきと研修を受けている姿を見て、入校することに決めた。

## 資金の活用例

- ・生活費
- ・就農準備費



## 研修中に工夫したポイント

- ・完全な農業初心者であったため、指導を受けたとおりに作業を行うことを意識した。
- ・その日の研修内容はノートに記録して、あとで見返せるようにする。また、写真や動画を撮ることで視覚的にもわかりやすくした。
- ・先輩卒業生から話を聞いた。大体同じことで苦労をしているので自分たちと同じ目線で話をしてくれた。

## 今後の取組

- ・ピーマン  
収穫最盛期の作業効率を上げて、廃棄をできるだけ少なくして、収量を向上させる。
- ・カボス、ちぢみほうれん草  
冬場の収入源の1つとして、体力的に負担がかからない程度に栽培する。

## 就農に向けた推移と今後

## 研修 (H31~R2)

農作業全般(座学、農家視察を含む)

- ・平成31年1月に研修開始。
- ・大型特殊免許取得
- ・次世代準備型を活用し、生計を維持。



## 就農準備 (R2)

模擬営農  
圃場の選定

- ・研修講師からの紹介で圃場を取得。
- ・次世代経営開始型受給のため、関係機関と連携し資料を作成。



## 現在(就農3年目)

ピーマン 15a  
かぼす 2a  
ちぢみほうれん草 4a

- ・農業収入は就農1年目から計画を大きく上回り、その後も順調な営農を行っている。

夫婦型で  
農業経営



## 今後の目標

ピーマン 15a  
かぼす 2a  
ちぢみほうれん草 4a

- ・作業効率を上げて、収量を向上させる。



# 川添 圭路 さん（43歳）

研修先：先進農家

研修内容：施設園芸（きゅうり）

## 新規就農を志した経緯・背景

祖父が農家であり、小さい頃から手伝いをしていた。教員として埼玉県に就職した後も、いつかはUターンをしたいという思いがあり「農業」を選択した。

## 研修中に工夫したポイント

- ・座学において、疑問に思ったことは徹底的に質問する。
- ・実習は「とりあえずやってみる」の精神を重視。  
特に初期は悩んでも分からないことがほとんど。
- ・実習は「人よりも動く」。  
1年間という短い研修期間で技術を身につけるためには、人よりも多くの作業や経験を積む必要あり。

## 資金の活用例

研修中は、無収入での生活となるため、生活資金として活用した。



## 今後の取組

- 部会上位の反収を維持する。
- 定期的に「休み」をとれる経営を目指す。

## 就農に向けた推移と今後

### 研修（H29～H30）

農業全般の座学。  
施設園芸栽培の実習。

- ・平成29年に研修開始
- ・人よりも多く質問し、  
人よりも多く手を動かす。

### 就農（H30.8）

施設きゅうり17aで  
経営を開始。

- ・農地とハウスは、  
研修先から賃借
- ・農業次世代人材投資  
事業（経営開始型）  
を活用

### 台風被災（R4.9）

宮崎県を襲った  
令和4年台風14号  
により、ハウスが  
損傷。  
修繕を契機に、  
リースから所有へ。

### 現在（就農6年目）

規模を23aに拡大。  
技術の研鑽を重ね、  
部会上位の反収を  
達成。

### 今後の目標

今は働き詰めの  
毎日。

現在の収量を  
維持しながら、  
休みをとる。



## 山田 豊 さん (38歳)

研修先：先進農家  
研修内容：野菜

## 新規就農を志した経緯・背景

高校卒業後、一度は島外に出て会社勤めをしていたが、生まれ育った種子島の山や田畑など自然豊かな故郷を忘れられず、帰島して就農することを決意した。

## 研修中に工夫したポイント

- ・指導農業士である先進農家のもとでベテランの技術を間近で学びつつ、農業公社が行っている講座にも積極的に参加し、農業の基礎知識から経営管理面など幅広く知識を習得した。
- ・農業委員会に相談し、農地の確保を進めるとともに、研修終了後スムーズに経営開始型に移行できるよう役場とも事前に調整を行った。
- ・研修終了の半年ほど前から圃場の準備を進め、必要最低限の機械を購入しすぐに就農開始できる体制を整えた。
- ・先進農家の人脈を活かし、就農後につながるネットワークを構築した。

## 資金の活用例

研修期間中の生活費や就農に向けた準備資金



## 今後の取組

目標とする作付面積を達成することができたので、今後も雇用を増やし法人化を視野に入れながら規模拡大を図っていききたい。まずは自らの農業経営を発展させ、地域の農業振興や地域の活性化に貢献したい。

## 就農に向けた推移と今後

研修 (H28～30)

先進農家のもと野菜の栽培実習・機械操作、農業公社等での座学

- ・平成28年に研修開始。
- ・資金は生活費の補填。

就農準備 (H30)

経営開始型へのスムーズな移行に向けた調整

- ・農地中間管理事業を通して農地貸借。
- ・農業機械の購入。
- ・青年等就農計画の作成。

現在 (就農5年目)

I PMの導入、従業員の雇用により規模拡大

- ・青年農業士の認定や、JA部会長に任命されるなど、地域農業の若手リーダーとして活躍。

今後の目標 (就農10年後)

農業法人化を目指す

- ・補助事業等活用した施設の増設による露地・施設を組み合わせた安定生産。
- ・高単価での販売取引や販路の拡大等の販売努力、雇用の拡大。